

柏木教会月報

11月号

東京都新宿区北新宿 3-1-18 ☎ 03-3368-2156

恵みの務め

エフェソの信徒への手紙 三章一～三節

牧師 村松 恵美

神は、その力を働かせてわたしに恵みを賜り、この福音に仕える者としてくださいました。（七節）

パウロはキリスト・イエスの囚人であると言います。獄中にいて、鎖につながれている囚人には違いありませんが、それだけでなく、異邦人に対する福音宣教のために、イエス・キリストを宣べ伝えずにはおられないほど主イエスに捕らえられている者、仕える者であると言うのです。キリストの囚人、それは、「生きているのは、もはやわたしではあります。」（ガラテヤ二・二〇）と言い切れるほどの信仰を持ち、また、困難や苦難もが福音の前進に役立つのであり、一切のことがキリストにあって神の恵みであると確信する者であるのです。キリストに仕える者としてのパウロの使命、それは、異邦人へ福音を宣べ伝える務めを与えられたことであり、そしてこそが神からの恵みを受けたのであると言います。

神が御心を行われるときには、その働きをする者を選ばれます。神の秘められた計画（奥義）が啓示されるためです。パウロもまたキリストの迫害者であったときに、神から選ばれ、「行け。わたしがあなたを遠く異邦人のために遣わすのだ（使徒二二・二二）」という主の声を聞き、主に任命され、異邦人に御言葉を宣べ伝える者とされました。

神はパウロを遣わし、秘められた計画を知らせてくださいました。それは、異邦人が「約束されたものを共に受け継ぐ者」であること、「共にひとつの体に属する者」であること、そして「共に約束にあずかる者」となることです（六節）。契約の民イスラエルでない異邦人が、同じひとつの体に属し、同じ約束にあずかるなど考えられないことでした。しかし、「キリスト・イエスにあって」異邦人にもこの特権が与えられたのです。

パウロは神の恵みの賜物によって、そして神が力を与えてくださったことによって、この福音に仕える者、神の僕とさいました。神の力はその務めを担う者の弱さを、それでよいと言つてくださいます。神の力によって、御心を行うために、神ご自身が用いてくださるのです。もし自分自身を見るなら、その弱さや欠けのために、自信を失つてしまふでしょう。福音宣教は自分の力でなすことではないのです。神の力は人の弱さを補つてくださいます。パウロは八節で、「この恵みは、聖なる者たちすべての中でも最もつまらない者であるわたしに与えられました。」と言つています。自分が与えられるはずのない恵みを与えていることを知れば知るほど、このようにしか言つことができなかつたのです。

わたしたちもまた、神の力の働きにより、またそれそれに与えられた恵みの賜物によって、この福音に仕える者とされています。受けるに恵みない者に、神が一方的に与えてくださるのが恵みであるのです。力のない者であっても、神から委ねられた務めを果たすために、神は永遠の計画による救いの御業を行わせてください。用いてください。弱さを補つてくださる神のこの力に信頼して、わたしたちは喜びの福音を伝える者としての歩みを続けていくのです。